

令和4年度 総合的な学習の時間 学習指導研究委員会のまとめ

一 テーマ

問いや願いの解決に向けて、地域の人、もの、ことに自ら関わり、自己の生き方につながる総合的な学習の時間の価値を見出していく

二 テーマ設定の理由

昨年度は、「自ら関わり、地域のよさを実感し、自己の生き方につながる総合的な時間の価値を見出していく」という研究テーマだった。今年度はさらに、学習指導要領にある育成すべき資質・能力である三つの柱に注目した。「何を理解しているか、何ができるか」という『知識及び能力』の観点、「理解していること・できることをどう使うか」という『思考力・判断力・表現力等』の観点、「どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか」という『学びに向かう力、人間性等』の観点を取り入れ、テーマを設定した。

三 研究の経過

- 5月 9日（月）打ち合わせ会
- 6月14日（火）事前授業研究会・教育課程研究協議②について（依田窪南部中）
- 9月 7日（水）教育課程研究協議会（依田窪南部中）
- 10月14日（金）各校の中間報告
- 11月28日（月）総委員会
- 12月 6日（火）各校のレポート提出 発表に向けて
- 1月19日（木）研究発表会

四 研究の内容（各校の実践から）

(1) A中学校（1～3学年）	3年間の地域未来プロジェクト
(2) B中学校（1学年）	食育 朝食づくり
(3) C小学校（6学年）	自分たちで育てたトウモロコシを売って、 地産地消に取り組もう
(4) D小学校（4学年）	子どもたちの「持ち込み」から深まった調べ学習
(5) E小学校（2学年）	気づきが深まる授業づくり（生活科）

(1) A中学校（1～3学年） 3年間の地域未来プロジェクト

① 本校の総合的な学習の時間について

本校は平成29年度に統合し、それ以降、総合的な学習の時間はそれまでの中学校で行っていた総合の時間での学習内容を一部組み入れて、3年間のカリキュラムを系統立てた「地域未来プロジェクト」として、各学年で活動しています。この地域未来プロジェクトでは、1学年「地域を知る」、2学年「地域に学ぶ」、3学年「アントレプレナーシップ学習＝地域の未来について提案・発信する」というテーマの中で、それぞれ活動しています。

② 今年度の各学年の取り組み

1 学年 「地域を知る」・・・地域のお薦めマップ作り、宿泊学習「地域発見の旅」

二つの自治体から集まっている生徒たちが、それぞれ地域のお薦めマップを作成したり、地域をめぐる宿泊学習で地域の宝について、体験や話を聞いたりして、自分たちが住む地域の良さや価値を知りました。



2 学年 「地域に学ぶ」・・・3日間の職場体験学習

事前学習で一人ひとりが働くことの価値について考えたり、地域の起業家や外部機関の方から話を聞いたりすることを通して、職場体験学習に具体的に目的を持って取り組めるようにしました。また、職場体験学習は、原則同じ職場で3日間行うことから、履歴書にあたる「自己紹介カード」に、体験学習でどのように取り組みたいか具体的に記入したものを事前に職場の方々と共有したり、担当者の方と打ち合わせをしたりする活動を通して、「仕事を覚え、指示にしたがって行動する」から徐々に「自ら考え、報告・連絡・相談をしながら行動できる」体験学習になるように準備しました。



2 学年後半の総合的な学習の時間では、地域に住む方々から地域が抱える課題、受け継いでいきたいこと、この地域に新しく起業することなどについて話を聞き、自分たちが住む地域の現状や未来について学びます。

3 学年 「アントレプレナーシップ学習」(ずっと住みたくなる地域のために、提案・発信する)

1, 2 年生で地域のことについて学びを深めてきた生徒たちが、テーマごとのグループで地域活性化のためのイベント、商品、PR方法、生活環境づくりなどを考えて、地域に発信します。この学習は企画を練る過程で、



他のグループや地域の様々な立場の方からの意見や指摘を受け、グループのみんなで協力して課題を解決し、最終的に文化祭で発表することをゴールとしています。ここ数年はコロナ禍の影響で、地域に自ら出向き自分自身で体験したり現状を知る機会を設けたりすることができず、一定の根拠をもって企画・提案をすることが困難な状況が続いていますが、今後も「本物に触れる」を学びの根底に据えていけたらと考えます。



③ 2 学年職場体験学習 活動の経過

5 月～6 月

- ・働くことの価値について考える
- ・ジョブカフェ信州 白石真樹さん講演会「自分を生かし、価値を作る」



- ・地域の起業家 羽田義久さん（株式会社日本ウオルナット）講演会「人は何のために働くのか」
- ・自己紹介カード作成
- ・職場の担当の方との打ち合わせ

7月～8月

- ・職場体験学習（3日間）の実施
- ・お礼状書き
- ・まとめのレポート作成



9月

- ・文化祭での発表準備
- ・文化祭での発表
- ・振り返り、まとめ



④ 職場体験学習、文化祭での発表を終えて 生徒の感想

- ・仕事は「人生の一部だ」と聞いて、それなら人生を豊かにするためにも良い仕事選びがたい説だと思った。また、自分が関わった仕事が、結果的に目に見えるようになることにやりがいを感じた。
- ・1日目は緊張していて、笑顔で過ごすことができませんでした。ですが、職員の方や利用者さんが笑顔でいて、最終日になるにつれて私も自然と笑顔でいられるようになりました。
- ・声が小さかったり、笑顔ができないときがあったが、2日目、3日目はできて良かった。体験学習での反省を生かした行動を、これからの学校生活や行動に生かしていきたい。
- ・（歯科医院での体験から）長和町の人々の歯を守り、支えていることはもちろんのことですが、それに加え、交通の面でも患者さんの助けになっていると思います。私が知る限り、次に近い所は上田市内なので、「町内にある」ということが大きな意味があるのではないかと考えています。

⑤ 成果と課題

- ・自分たちが住んでいる地域で体験学習を行ったので、仕事内容だけではなく、職場の方々の地域への思いや未来を担う若者たちへの願いに様々なアプローチで触れる機会となった。このことは今後のアントレ学習にも生かされ、子どもたち自ら自分たちが住む地域について考えることにつながると思う。
- ・体験学習中は、各職場で毎日終了前に1日の反省と翌日の目標を一人ひとりが発表する時間を設けていただいた。その結果、単に仕事の体験をするだけではなく、最終日になるにつれて生徒が目的を持ち主体的に取り組む意識をもつことにつながった。
- ・文化祭での発表に向けて、生徒たちは互いに相談・協力しながら話し方や話すスピードを改善したり、途中にクイズを入れたりすることで、聞き手に伝わりやすく興味をもって聞いてもらう工夫を主体的にしていた。
- ・職場の方からの評価から、あいさつ、返事、声の大きさ、相手に応じた言葉遣いなど社会生活に必要な基本的マナーにまだまだ課題が残ることが分かった。今後も普段の生活全般を通じてきちんとできるように指導していく。
- ・コロナ禍の影響で、今年度も学習の過程で関わっていただいた地域や外部の方々に生徒たちの学習の成果を見ていただくことができなかった。来年度はぜひ実現させたい。

.....

(2) B中学校 1学年 食育 朝食づくり

① 単元設定の理由

本校では「食と命」をテーマに3年間通した総合的な学習のカリキュラムが組み立てられており、1学年では主に「給食」「朝食」を中心に学習を行う。今年度の1学年もそれに倣い、朝食を作ることをゴールに据えた学習を行ってきた。

② 活動の経過

- 5月 ガイダンス
朝食の重要性について
- 9月 卵料理の実習
朝食づくり

③ Cさんの学びについて

本稿では実際の生徒の姿として、Cさんの姿を紹介する。彼女は普段から家事の手伝いとして調理を行っており、調理技術も高い。本校での総合では、調理実習も行うため、調理が上手いか、苦手かといった感想が残りやすい傾向がある。総合的な学習である以上「上手く作れてよかった」などとは違った学びが見られるのではないかと思い、彼女の学びについて紹介したいと思う。

〈1〉朝食の重要性について学ぶCさん

いつもは朝食を食べているけれど、主食だけとかが多いので、これからはしっかりバランスのとれた朝食をとれるようにしたいです。

朝食で摂るべきエネルギーの量や、1日に必要な野菜の摂取量の目安などを学習したCさんは、自身の食生活をふりかえって、上述のように記述していた。栄養素とその働きを知り、それに伴う朝食メニューの考案など、Cさんが今後朝食づくりに向けた見通しをもつ上で重要な1時間となった。

〈2〉卵料理としてだし巻き卵を作ったCさん



朝食づくりの前段階として、卵料理の中から一品選んで調理実習を行った。Cさんは普段から家で料理をすることもあり、だし巻き卵を選び、チーズや昆布などを入れて工夫のある卵焼きが完成した。この実習では最後に自分でも食べることになっており、そのうえでCさんは次のようにふりかえている。

いつもよりは味がちょっとしょっぱかったかなと思った。でも見た目もよくできたし、入れたチーズものびていてとてもおいしくできたなと思った。時間がけっこうかかってしまった。本番では食べる人のことを考えながら愛情をこめて作りたいなと思った。



ここでの「本番」とは「朝食づくり」のことであるが、味だけでなく、朝食にかかる時間なども視野に入れながら見通しをもつことができた。

〈3〉朝食づくりをしたCさん

<p>朝食のテーマ 「一日元気いっぱい過ごせる朝食」</p> <p>1. 工夫した点 色合いに気をつけて赤・黄・緑の食べ物を取り入れて見た目と栄養が偏らないようにすることができました。</p> <p>2. 作った感想 バランスを考えて作ることができたし、味付けが濃くないように気をつけて作ることができました。 思っていたよりも時間がかかってしまったので、次朝食を作る時は、時間があまりかからないように頑張りたいです。</p>	 <p>作った朝食の写真</p>
--	---

上の写真などは、各自が家で調理した朝食を Chromebook で撮影し、Google ドキュメントの書式に挿入して作成したレポートから抜粋した。調理実習とは違う献立になったものの、調理実習での反省をふまえ、味付けに工夫をしていることが分かる。また、調理時間についても調理実習と同様の問題意識をもち、取り組んでいたことが読み取れる。

④ Cさんの姿から

Cさんの姿を見て、普段から料理に親しんでいる生徒であっても、食事を作ることの難しさや重要性、また調理に至るまでの過程などに新鮮な気づきや学びがあり、成長につながっているのだと考えられる。また、「食事を作る大変さ」「調理者への感謝」など、生徒からすれば「そんなことは分かっている」と感じるようなことも、実際に体験してみることで実感が湧く部分もあるように感じる。

しかしながら、調理をする以上「上手にできた」「美味しく作れなかった」といった感想も出てきてしまう。だからこそ、調理の技術や献立作成の能力の先にある部分に、多くの生徒が価値を見出せるような総合的な学習にしていきたいと思う。

.....

(3) C小学校 6年生 自分たちで育てたトウモロコシを売って、地産地消に取り組もう

① 活動の概要

5年生のときに社会科の農業の学習で、「地産地消」について学んだ子どもたち。その中で、「地産地消」は、地元で育てたものを地元の人たちに売ることによって、商品が新鮮・生産者の顔が見えやすい・地球温暖化を進めないなどたくさんのメリットがあることを学習した。6年生になった子どもたちと総合的な学習の時間でどんなことに取り組みたいか考えたところ「畑をかりたい」「自分たちで野菜を育てたい」「その野菜を学区にある直売所で売りたい」「売上金は世界で困っている人のために使いたい」といった意見が出た。そして、取り組みたい内容のどれにも根本的にSDGsの考え方があることに気づいた子どもたちは、今年度の総合テーマを「One for all SDGsで幸せな未来をつくろう」とし、学習を進めてきた。

② 子どもの育ち

・Sさんの様子

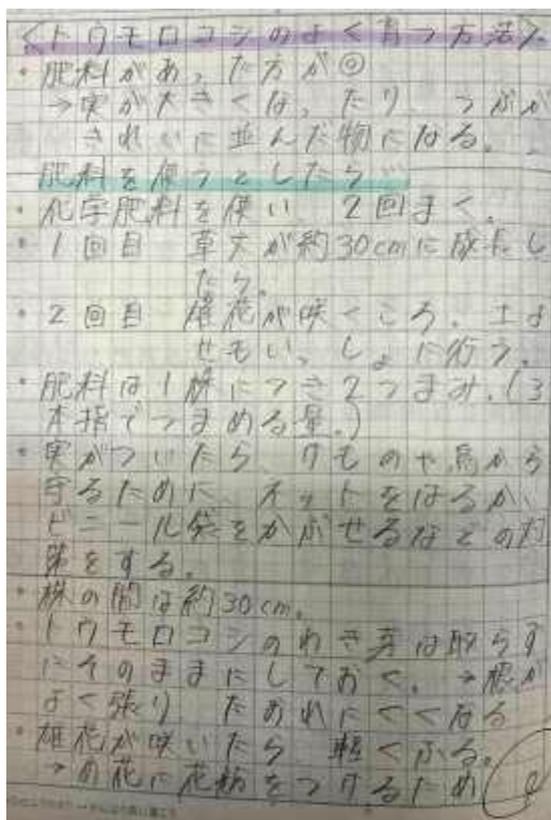
Sさんは、「お客さんも喜んでくれるおいしいトウモロコシを収穫したい」という願いをもってこの学習を行っていた。自分の願いを実現するために、トウモロコシ栽培がはじまると、この先どんな課題が出そうか自分で問いを明確にして、祖母にインタビューをしたり、インターネットで調べたりしていた。調べていた内容は、「トウモロコシを苗のポットから畑に植え替えるタイミングはいつか」「畑に植え替えてからどのように世話をすればいいか」「どうしたらしっかり受粉できるか」などだ。

「トウモロコシを苗のポットから畑に植え替えるタイミングはいつか」については、苗丈が15cm以上になることが条件だと調べ、そのことをクラスのみんなに伝えた。すると、水やりをするときに定規をもっていつ苗丈を測る子どもが何人もいた。1学期終業式前日に、苗丈が15cm以上になったので、みんなで畑に植え替えた。

「畑に植え替えてからどのように世話をすればいいか」については、トウモロコシの特徴を詳しく調べていた。1学期終業式の日（畑に苗を植え替えた翌日）、畑に行くか行かないかみんなで話し合った。元気な男子たちが「畑に行って水をあげよう」と言った。クラス全体も、畑に行こうという雰囲気になった。そのとき、Sさんが手を挙げて「トウモロコシは乾燥しているところを好む。おばあちゃんも水をあげすぎないほうがいいと言っていた。昨日の夜、たくさん雨が降っていたから私は畑に行く必要はないと思う」と発言した。教室の中がしーんとした後、「そうなんだ」「水をあげすぎるとよくないだね」というつぶやきが聞こえた。結局、「昨日植え替えたトウモロコシの様子を見たい」ということで、畑には行ったが、水をあげずに苗丈だけ測る子どもや、水を調節しながらほんの少しあげる子どもなどもいた。

その後、トウモロコシは成長していき、ひげ（綿糸）が出てきた。この頃、Sさんは、「お客さんが喜んでくれるトウモロコシ」は実の粒がそろっていて美しい黄色のトウモロコシだと考えた。では、どうすればそんな実になるのか・・・調べた結果ポイントは受粉だということがわかったそうだ。トウモロコシは、先の雄穂の花粉が雌穂のひげ（綿糸）につくことで受粉が行われる。しかし、Sさんはもっと確実な受粉方法を調べた。それが、雄穂を切って雌穂のひげ（綿糸）に花粉をこすりつけるという方法だ。トウモロコシは、アワノメイガという虫が天敵である。この虫が、実の中に入り込んで実を食べてしまうのだ。ただし、このアワノメイガは、最初に雄穂につくので、雄穂を切ってしまうと害虫の心配もないという。他の子どもも受粉については調べたが、このやり方を探し当てた子どもは他にいなかった。自然に任せて受粉をするかこのやり方を試すか話し合いをした結果、害虫の心配も減るのであれば一石二鳥ということで、Sさんのやり方を参考にするようになった。

Sさんは、この学習を通して、自分で課題を立て、情報を集める力がついたと思う。また、Sさんはこの調べ学習をすべて自主学習で行っていたが、調べたことを自分で自主学習ノートにまとめていた。それによって、集めた情報を整理・分析してまとめ・表現することができていた。Sさんは、学習意欲は高いが授業で発言する回数が人一倍多いわけではない。しかし、この総合的な学習の時間では、自分が調べたことを積極的に堂々とクラスのみんなに発信していた。そんなSさんの姿を見て、Sさんに一目を置く子どもも増えた。Sさん以外にも、お家の方が畑でトウモロコシなどの野菜を育てている子どもが数人いたので、その子どもたちもお家の方に育て方などを尋ね発信するようになった。



・Bくんの様子

私がBくんと出会ったのは、3年生のとき。様々なことにこだわりがあり、友達と仲良くしたい気持ちはあるがよい距離感を保てず友達とうまくいかないことが多かった。Bくんは、植物や生き物に詳しい。トウモロコシが成長するにつれて畑には虫が増えていった。すると、Bくんは「この虫がいると畑にとってこんないいことがあるんだよ」「この虫はトウモロコシにとってよくないことをする」などと知っていることを自分からクラスの人々に伝える回数が増えた。その後、外国語の授業で生き物についての授業をすると「この生き物は何を食べるの?」「この生き物のすみかはどこ?」などとBくんは友達に何度も聞かれていた。自分の長所を活かして友達に頼られる場面が増えた。また、畑を片付ける場面で、残ったトウモロコシの苗はどうするか話し合ったとき、Bくんは「トウモロコシの苗は動物のえさになる」と発言。偶然、滋野小学校の2年生のみなさんがヤギさんを飼っていて冬場のえさに困っているということで、実際に残ったトウモロコシの苗が滋野小学校のヤギさんのえさになった。2学期後半、Bくんは畑で活動するとき、クラス全体に声がけをする姿が増えた。支柱をぬく作業をするとき、「全員1本ずつ支柱を持った?」と聞いたり「まだ〇〇さんが持っていないからぬくのは待って」と言ったりしていた。Bくんは、徐々に主体的・協働的に活動に取り組む姿が増えたと思う。総合的な学習の時間だけが要因ではないと思うが、普段の友達との関わりも円滑にできるようになってきて、友達と笑顔で話す姿が増えた。

③ 今年度の総合的な学習の時間の取り組みから学んだこと

- ・これまでは、ただ漠然と「総合的な学習の時間に地域の方と関わる機会をつくりたい」と考えていた。しかし、実際に地域の方と関わると、子ども達の中に「人と関わることの大きな価値」が残ることがわかった。

【Aくん】まず畑をみつけるときに、自治センターの方・畑を貸してくれたTさん・直売所などの協力があってからの学習ができた。地域の人たちは温かいと思った。また、種まきや苗植え、ネットはりのときに、自治センターの方やSさん・Kさんなどが協力してくれた。人の温かみを知った学習だった。

【Mさん】私たちのトウモロコシを買ってくれた人は、知らない人も知っている人も、みんな笑顔になっていたことが心に残りました。それを見たら、トウモロコシを育てて、それを売ってよかったなあと思いました。

普段、友達・教師・家族以外と関わる機会が少ない子どももいる。コロナ禍で校外の方とはなかなか交流できないが、小学生のうちに様々な人と関わりをもつことはとても大切だと思った。

・探究的な学習における4つのプロセス【課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現→課題の設定】

を何周もできるようにしたい。いま行っている活動がこのうちのどれにあたるかを教師は意識したい。特に「情報の収集」については全員でもっとじっくり行いたかった。Sさんのように意欲的な子どもは、自分でトウモロコシの成長を見越して調べ学習をしていた。クラス全体でも、一人ひとりが調べてどんな育て方がいいか決め出していく場面を多くつくりたかったが、トウモロコシの成長するスピードに私たちの調べ学習が追いつかなかった。お家の方に、トウモロコシ栽培について話をよく聞いていたNさんは次のようにふりかえていた。

【Nさん】トウモロコシを育てるときに、虫のこと・水やり・育て方などについて調べたり、知っている人に話を聞いていたりしてその中でいいなと思うものに取り組めたから、無事にトウモロコシを収穫できたと思う。

Nさんのように、情報収集の大切さを実感できる子どもが多くなるようにしたい。

・私は、総合的な学習の時間で子どもたちと栽培に取り組んだのははじめてだった。最初は、自分の中で栽培活動と総合的な学習の時間でつきたい力がリンクせず、難しさを感じた。その一方で、はっきりとした対象（今回であればトウモロコシ）があることはとてもよいことだと感じた。たくさん種をまくことができたので、一人5本ずつ自分の苗があったことも、自分事として学習に取り組むことにつながったと思った。

.....

（4）D小学校 4年生 子どもたちの「持ち込み」から深まった調べ学習

～上田丸子電鉄を調べた児童の姿から～

今年度の総合的な学習の時間、クラスでどのような活動に取り組んでいこうか考えていく中で、「地域を調査・探検して、見つけたものを紹介する」といった大まかなテーマができ上がってきた。そして、自分が紹介したいものを決めて、同じ目的をもった児童でグループをつくり、調査活動をすすめていった。なかなか調査対象がしぼれない児童もいたため、担任からは、調査のきっかけづくりとして上田丸子電鉄の動画を紹介した。そこに映っていた「古い線路と電車」「小学校の校門」、今はない「上田東駅」などに興味をもち、上田丸子電鉄について調べていこうとするグループも複数できた。

H児・O児の姿から

動画をきっかけに、クラスみんなで、学校からほど近い上田東駅のあった場所を訪ねたことで、O児は「昔あった上田電鉄が通っていた路線や駅の場所を調べたい」、H児は「電車のことはあまり知らないの、丸子電鉄やあまり知られてない電車などを調べたい」と一緒にグループを組み、本やインターネットをもとに、上田丸子電鉄について調べ始めた。そして、上田丸子電鉄が過去にいくつもの路線もっていることが分かってきた。

H児は家で上田丸子電鉄について話題にしたところ、祖母が真田線を利用していたことが分かった。そこで、9月の週末を利用して、O児とともに、祖母と一緒に真田線の跡を巡ってきた。2人は、終点であった真田駅と傍陽駅、本原駅・北本原駅・石舟駅の跡について調べ、その際に撮影した写真データを持ち込んできた。そのデータをスライドにして紹介したいということだった。



さらに、10月の週末には、よりよいスライドにするために、真田線の跡がはっきりと残っている場所をさらに紹介したいと、上田城付近にある真田線の跡を同様に調査し、写真に撮って再び持ち込んだ。写真データがそろったところで、本格的にスライド作りを始めた2人。写真に撮った場所の紹介にとどまらず、その場所を訪れた感想も交え、自分の言葉でまとめていった。



活動を振り返って

2人によるスライド作りは順調に進み、2学期中には完成しそうである。11月末に行った活動の振り返りには、次のように記されていた。

- ・真田交通傍陽線をよく知るために、跡に行きました。でも、それだけじゃ、よくわからないので、わたしのおばあちゃんに聞いて行きました。おばあちゃんは、インターネットに書いてないことも教えてくれたので、とてもいいレポートができました。実際にいき、またそのことにくわしい人に聞く。それをクリアすれば、いいレポートが作れると思った。また、教えてくださった人にお礼の気持ちを伝える。これをがんばりたい。続けたい。(H児)
- ・私は電鉄のことに興味はありませんでしたが、総合をやるにつれてもっと知りたくなったことや調べたいことができました。この学習を通して、興味がないものでもそのもののことをよく知れば興味がわいてくるんだな、と思いました。(O児)

2人にとっては、上田丸子電鉄そのものについてだけでなく、実際に現地に行く、調べたいことについてよく知る人に直接聞くという、調べ学習を進める上で大切なことに気づけた学習になったように思う。また、2人の自主的な調査活動は、自分たちの課題を解決したいという強い思いに支えられたものだったと考えている。この姿をクラス全体に紹介したところ、他のグループの中にも、休日を利用して調査活動をし、写真や聞き取りをしたメモ、いただいた資料などを持ち込む姿が広がっていった。グループにより調査の対象が異なり、担当が調査の方向について迷いをもっていたところで、子どもたちから動き出す姿にだいぶ助けていただいたという思いである。

ここまでは、グループでの活動が中心であり、クラス全体で調べたことを共有していくことが十分にできなかった。グループごとの調査の成果を全体で共有し、改めて地域の良さについて振り返ることで、ようやく1年間の学習のまとめになるのではないかと考えている。

.....

(5) E小学校 2年生 気づきが深まる授業づくり ～問いと振り返りを重視して～ (生活科)

① 小単元名「ヤギさんのよろこぶお世話をしよう」全20時間

② 単元設定の理由

7月から3頭のヤギを飼い始めた2年生。来てすぐの頃は、自分なりのお世話をして、ヤギと関わっていた。エサに花を飾って、彩りのあるお弁当を作ったり、たくさん運動させたいとリードを引っ張ってお散歩をしたりしていた。そこで、2学期はヤギの目線に立ってお世話をしてほしいと考え、「ヤギさんのよろこぶお世話は何か？」と子どもたちと問いをつくった。また、問いと振り返りを重視して授業づくりを行い、毎時間、気づきを深めていけるような活動にしたいと考えた。

③ 気づきを深めるために行った手立て

教師の手立て①：よろこびポイントの設定

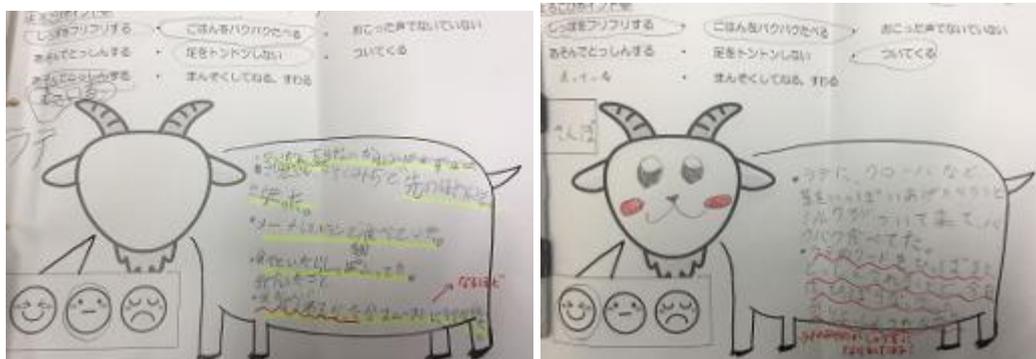
ヤギの様子を見方をより意識していくため、どんな姿が喜んでいるといえるのかという「よろこびポイント」をみんなで出し合った。最終的な「よろこびポイント」は、7つで、以下の通りである。これらの姿を見られるようにお世話を行った。

- ・しっぽをフリフリする
- ・ごはんをパクパク食べる
- ・おこった声で鳴いていない
- ・遊んでとっしんする
- ・足をトントンしない
- ・ヤギがついて来る
- ・走っている
- ・まん足してすわる、ねる



教師の手立て②：ワークシートで振り返り、気づきを共有

ワークシートは、「よろこびポイント」に丸をししたり、ヤギの顔（笑顔・普通・悲しい顔）を選んだりすることから始まり、自分のお世話や気づいたことを書きこめるようなものを用意した。また、記入後には、それぞれのお世話や気づいたことを共有した。



④ 子どもたちの様子～Aさんの姿から～

Aさんは、始め、「いろんな草をいっぱい食べさせてあげたい」と考えていたが、お世話を続けるうちに桜の葉や桑の葉にとくに食いつきがいいことに気がついた。それに加えて、桜の葉の中でも「黄色い葉っぱをよく食べるよ」という友達の振り返りを聞き、桜の黄色い葉を集めるようになった。



さらに数日後、りんごを家から持ってきたが、大きすぎて上手に食べられないヤギの様子に気がつく。そこで、次の日ははさみを持っていきエサを細かく切った。すると、今まで全部食べられず残っていたエサを全部食べることができた。その日から、Aさんは毎日のはさみを持ってお世話に行くようになった。

Aさんの単元の最後の振り返りには、以下のように書かれていた。

- ・スイカの皮は大きすぎて食べられなかったけど、細かく切ってあげたら、食べてくれました。
- ・ラテ、ミルク、ココアは、自分のこのみとかがあってあまり好きでないものは食べません。
- ・お世話をどんどん慣れてきてヤギさんとなかよしになりました。

⑤ 成果

- 問いに向けて、「よろこびポイント」という視点をもとに、ヤギと関わる中で、気づきがどんどん増え、視点が鋭くなっていった。そして、お世話が上手になった自分にも気づいていった。
- 「よろこびポイント」を設定したことで、全ての子どもがヤギの様子をよく見るようになり、ヤギの気持ちを考えるようになった。ヤギ目線でも見られるようになった。
- 振り返りで出た課題を共有したことで、次にやる活動に見通しをもつことができた。自分なりの課題が定まっていな子どもには、とくにこの時間が大切だと感じた。

〈振り返りで出た課題と解決策〉

振り返りで出た課題	子どもが考えた解決策
・散歩に行くときにリードをひっぱるといやがる	→エサで道をつくる
・メーメーレストラン（エサをあげる場所の名前）に行かない	→エサで道をつくる →家族一緒につれて行く
・メーメーレストランにエサがない	→他のところでエサを取って箱で運ぶ
・エサが足りない	→お家の人に聞く。地域の人をお願いする

⑥ 総合的な学習の時間（生活科）における問いや振り返りの価値

私が感じた総合的な学習の時間（生活科）における問いや振り返りの価値は2つある。1つ目は、問いや願いが子どもにとってより切実なものであることである。2学期の始めにヤギが鳴いて満足していない状態にあることは、常に子どもたちの心の中にある課題であった。「自分たちがなんとかしなければいけない」という気持ちが、子どもたち一人一人の大きな原動力になっていたと考えられる。2つ目は、対象と繰り返し関われることだ。お世話を繰り返す活動では、前の日の気づきや振り返りを生かすことができる。これが、たくさん気づきを生み、「自分から見たヤギさん」、「ヤギさんから見た私たちのお世話」、「自分のお世話の成長」と気づきの質を高めていったのだと思う。これらによって、教科のねらう主体的で深い学びに繋がっていくのだと感じた。

五 研究の成果と課題

- ・毎年、「総合の時間があまり取れない」という意見の多い中学校の実践から今年は学ぶことができた。A中学校のアントレプレナーシップ学習とB中学校の食育は、地域の方と連携しながら、特色ある3年間のカリキュラムを作っていた。
- ・今年度の教育課程校には、事前授業から参観させて頂いた。実際に授業を見せて頂くことで、アントレ学習のよさをより感じる事ができた。
- ・委員会では、各校の実践発表を行い共有してきた。それぞれが子どもに合わせたテーマで活動を行っており、毎回良い刺激になった。また、委員会がきっかけとなり、委員同士がコラボレーションして行った授業もあった。総合的な学習の時間の価値についてもそれぞれが考えることができた。
- ・委員の数が減少傾向にある。実践を多く聴き合い、委員会をより充実させるためにも人数は必要である。各校で、総合的な学習の時間に興味のある先生を推薦するなどして、人員を確保していきたい。